

歌詞に込められた思いや意図を伝える方法についての一考察 ～「私と小鳥と鈴と」を題材として～

Method for Conveying the Thoughts and Intentions of the Lyrics of
“Me, a Little Bird, and a Bell”

鈴木雪絵

キーワード：作曲、歌詞、日本語、思いや意図、表現

1. はじめに

大正から昭和初頭にかけて活躍した童謡詩人、金子みすゞによって書かれた詩「私と小鳥と鈴と」は、平成8年に初めて小学校の教科書で取り上げられ¹、それ以降、大人だけでなく子どもにも広く認知されている。これを歌詞とする唄も数多く作られている。そしてこれらは、歌詞内容は同じであるが、作曲方法によって「童謡唱歌風（音程が大きく跳躍することがなく、平易な旋律でテンポやリズムも比較的一定）」「歌曲風（テンポやリズムの伸び縮みにより音楽に表情をつけられている）」などそれぞれが異なった雰囲気を持っている。

本研究では、実際に発表されている楽曲を分析し、それらの曲調の違いがどのような手法によるものであるかを考察する。これにより、音楽を「創る」活動や、また音楽以外の場面においても、表現者が他者に思いや意図を伝えようとするとき、どうすれば的確に相手に通じるか、その方法を示すことを期するものである。

2. 先行・関連研究について

これまでにも、日本語の詩を元に作曲する際の留意点についての研究²や、それに加えて拍子や強弱、テンポの緩急との関わりにも言及した研究³があったが、同じ詩で違う旋律を持つ複数の曲を比べる研究は見当たらなかった。同じ歌詞内容で違う旋律を持つ曲

が複数ある場合、それらを比べることで初めて可視化されるものもあると考えられる。

3. 研究方法と目的

初めに、「私と小鳥と鈴と」を歌詞に持ち、かつ楽譜の確認が出来た作品を、「歌曲」「童謡唱歌調」「混声合唱（男声合唱・女声合唱を含む）」「児童合唱」に分類した。これらの歌の中には、無伴奏の合唱作品もあったが、本研究では旋律の動き方を取り扱うため、伴奏の有無は関知しないこととした。そして、楽譜を探す際に、演奏動画や音源はあるが楽譜は無いという作品があった⁴が、本研究においては「歌の旋律の動きを楽譜から正確に読み取る」ことを重視したため、音源の有無に関わらず、現在楽譜が出版・公開されており、店舗での購入、オンラインショップといった一般的な購入方法をもって入手できるものに限った。

今回、比較対象として分析を行った作品の作曲者は25名義である⁵。

研究の方法として、文字数による詩の形、拍子や調性といった音楽上での構成の相違点、旋律の上下の動きとアクセント位置との関わりに留意した。

3. 1. 日本語の持つ特性についての考察

まず「私と小鳥と鈴と」の詩について触れる前に、日本語の持つ特性について解説する。

基本的に日本語のリズムは、かつて幼い頃にジャン

ケンのそれぞれの形を「グリコ (グー)」「チョコレイ
ト (チョコキ)」「パイナップル (パー)」と称する遊び
に興じたように、仮名で表記されたものを全て均等な
リズムで読むことが多い。

これは、日本語が英語などのような「強勢基準的リ
ズム」ではなく「モーラ基準的リズム」と呼ばれるた
めである⁶。そのため、リズムの上では等時性を持ち
あわせている言語であり、どんな仮名を使おうとも一
文字に対しては同じ一音分の時間が費やされる。

日本語を構成する仮名には、表1のような種類があ
る。

この中で濁点・半濁点は単独では発音することが出
来ない。これらは、例えば清音である「は」に濁点・
半濁点が付くとそれぞれ「ば」(濁音)、「ぱ」(半濁音)
となるように、清音と一緒に初めて発音が可能
になるものである。

拗音については、これも単独では発音することが出
来ない。例えば清音である「ひ」につくとそれぞれ
「ひゃ」「ひゅ」「ひょ」という音になるが、これらも
清音と一緒に初めて発音可能になるものであ
る。

促音については、単独で発音できないのは濁音・半
濁音・拗音と同じであるが、例えば「糧 (かて)」と
いう二文字の仮名の語句が、中心に拗音が入ると「勝
手 (かて)」となり、三文字分の時間を使って発音
される。このことから、促音は発音せずとも単独で一
音分の時間を要するということが分かる。

撥音については、単独で発音が可能であるため、こ
れのみで一音とする。ただし、作曲する場合には日本
語独特の要因により音数が変わることがある。これに
ついては、後述する。

その他、長母音・二重母音は仮名にすると二文字で
表記されるが、作曲する際には、長めの音価を持つ音
符一つだけで長母音・二重母音を表す二文字分を表す
ことがある。これについても、後述する。

なお「私と小鳥と鈴と」の中にも、促音・撥音・長
母音・二重母音がいくつかあるが、それらにあたるも
のは表3～表12の中において朱文字で表記している。

表1 日本語の仮名の種類

清音	五十音表における「あ」から「を」までの 仮名
濁音	清音に「゛」(濁点)を付けた仮名
半濁音	清音に「゜」(半濁点)を付けた仮名
拗音	「ゃ」「ゅ」「ょ」
促音	「っ」
撥音	「ん」

ただし、長母音に関しては後半の音のみを朱文字にし
ている。

3.2. 「私と小鳥と鈴と」に内在するリズム

前項で述べた日本語の特性をふまえ、「私と小鳥と
鈴と」の文字数を考察する。原詩は漢字も織り交ぜて
書かれているが、漢字一文字を発音する音数は字に
よって様々であり一音とは限らない。これは、漢字が
意味をも内包する表意文字であることに由来する。一
方、仮名は一文字が一音になる表音文字であるため、
こちらの方が文字数を数えるには利便性が高い。そこ
で、これ以降は、原詩において漢字表記である箇所も
図表の中では全て仮名に置き換えて表記することとす
る。

「私と小鳥と鈴と」を仮名表記にし、文字数を数え
ると次の通りとなる。(括弧内は文字数)

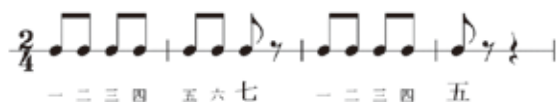
わたしがりょうてを(8) ひろげても(5)
おそらはちっとも(8) とべないが、(5)
とべることは(7) わたしのように、(7)
ちべたをはやくは(8) はしれない。(5)

わたしがからだを(8) ゆすっても、(5)
きれいなおとは(7) でないけど、(5)
あのなるすずは(7) わたしのように(7)
たくさんうたは(7) しらないよ。(5)

すずと、ことりと、(7) それからわたし(7)
みんなちがって、(7) みんないい。(5)

このように、文字数に多少の揺れはあるものの、この詩はほぼ七五調で書かれており、安定したリズムのもとで読めることがわかる。日本のもっとも古いうたの一つである和歌も、印刷技術の乏しかった時代においては、歌を詠む場において旋律をつけて詠むなど、歌詞の内容を相手に伝えるために工夫を凝らしていたであろうことがうかがえる⁷。

七五調の詩を声に出して読む際に明確な拍節感のもとで読めるのは、この形式が以下のようなリズムを持っているからである。

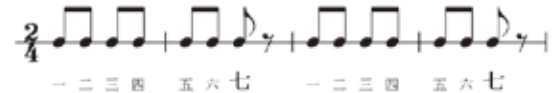


また、「七五調」が字数の揺れにより「八五調」「七七調」になっている箇所がいくつかあるが、これらも同様に次のようなリズムで読むことが出来る。

八五調



七七調



こうしてみると、全ての行が2拍子のリズムを内包しているのではないかと想像できるが、2拍子という拍子は、「日本人の生き方を形成し、文化の原型をつくり、言語を構成する要因のひとつとなった」と言われる稲作のリズムでもある⁸。

また稲作は「他の人と合わせながら、呼吸を合わせながら行わなければならない⁹」ものでもあるため、「七五調」「八五調」「七七調」ともに適宜休符が入ることで、他者と協同して作業を進めるのが容易になると考えられる。とはいえ、3拍子になるとたちまちリ

ズムが崩れるというものではない。

3拍子の曲であっても、それはまるで能の謡のリズムの様に、長いフレーズの「真ん中に向けて音が高」くなりそこから段々と終わりに向かって平静を取り戻す、といった纏まりを持たせることが出来る¹⁰。「私と小鳥と鈴と」は各連ごとに偶数行で書かれており、内容的にもそれぞれ第1行と次の行(第2行)とが対、第3行と次の行(第4行)とが対というように、2行ごとにこのような「謡の旋律パターン」が生かされていると解釈することも出来るであろう。

以上のことから、定型詩に旋律を付ける場合、2拍子系、3拍子系ともに支障なく作曲出来ることが推察される。

3.3. 「私と小鳥と鈴と」にみられるアクセント

本項では、「私と小鳥と鈴と」の詩に作曲家がどのような旋律を紡いでいったのか、楽譜から歌の旋律を抽出し、その音高の動きに注目してみたい。

曲の構成としては、歌パートが単旋律の曲(歌曲、童謡唱歌)と複旋律の曲(混声合唱、児童合唱)とがあるが、どの部分を旋律とみなすかを次のように統一した。

単旋律：旋律をそのまま抽出

複旋律：歌詞を歌っている声部の中で一番高い音を抽出

合唱に取り組もうとするとき、音量を揃える目的で、高音パートは低音パートよりも人数を少なく配置することが多い¹¹が、これは高音パートは低音パートと比べ耳に届きやすいからであると推察できる。また、混声四部合唱の場合、内声と呼ばれるアルトとテノールと比べると、ソプラノ(最高音部)とバス(最低音部)は外声と呼ばれ、それぞれが主旋律とベースラインを担当することが多いことから、複数パートで和音を作っている場合は、歌詞を歌っている中で一番高い音を旋律とみなすことが出来る。ただし、女声か歌っていた旋律と同じ音型を男声か歌う場合は、音

高としては女声よりも1オクターブ低い音域になるが、それも旋律とする。

また、同じ語句を複数回、すぐ後で繰り返して歌われる箇所を持つ場合は、初出の音型を旋律とみなした。これは、同じ語句が複数回出てきた場合、初出の旋律が印象に残りやすいためである。ただし、一部の語句ではなくその行全部が繰り返される箇所においては、「繰り返すこと」自体に意味があるとみなし、その回数を数えて分析材料に加えた。

このようにして抽出した旋律を比べ、その相違点について考察したい。

旋律の上下の動きと日本語の高低アクセントとの関わりを検証するために、詩にアクセント記号を書き加えると図1の通りとなる。

なお、アクセントの表記方法については、『新明解日本語アクセント辞典 第2版』（三省堂、2014）の記号を用いるものとする。

図1の■の箇所の音程をもって、旋律の動きとアクセントとが呼応しているかどうかを判断することとし、合致すれば○、反対方向に動いていれば×、同音が続くことでその箇所での判定が出来ない場合は-で

表記する。アクセントと特に関わりのないその他の音に関しては、旋律の動きに特に関知しないものとみなし判定はしない。

この■の位置は、以下のa～dの理由により定められたものである。

- a. いずれの単語も二文字目の音は必ず上下のどちらかに動くが、その動く方向によっては全く違う意味を持つ語句になる可能性があるため、二文字目に判定ポイントを定める。

例：「はし」

「はし（箸）」

「はし（端）」

- b. 高く発音した後、下がってから助詞が付くのか、高いまま次の文字が続くのかによって意味が変わる箇所は、アクセントの次の音にも判定ポイントを定める。

例：おとは（o-to-wa）

「おとは（音は）」

「おとは（乙羽）」

- c. 「清音+撥音」は二文字で表記されるため音符も二つになるが（ア）、これらが一つの音符もしくは同じ音高にまとまっている場合（イ）は、撥音の箇所ではなく、その次の音で判定することとする。

例：たく「さん（清音+撥音）」な

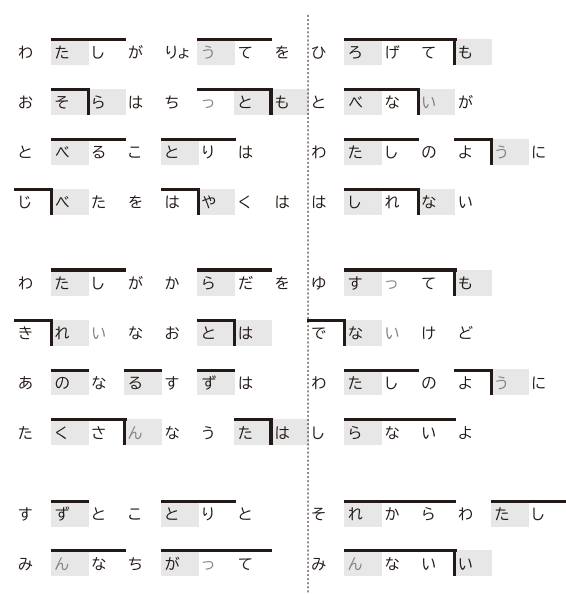
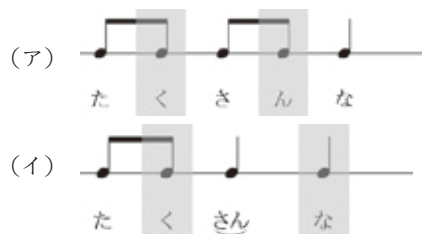


図1 日本語アクセントと本研究での判定ポイント（■部分）

d. 「長母音」「二重母音」は二文字で表記されるため音符も二つになるが(ウ)、これらが一つの音符もしくは同じ音高にまとまっている場合(エ)は、長母音または二重母音の箇所ではなく、その次の音で判定することとする。

例：わたしの「よう(長母音)」な



e. 同じ音高で反復され、判定ポイントで判定が出来ない場合、次の音で動きがあればそこで判定することとする。

本研究で扱う25曲であるが、作曲家、曲の調号の数・調性・テンポ・拍子、そして「歌曲」「童謡唱歌」「混声合唱」「児童合唱」のいずれかに分けた理由は、表2にまとめた。

「私と小鳥と鈴と」は第1連4行、第2連4行、第3連2行の合計10行から成る詩であるが、1行ずつに分解し、25曲の該当部分の旋律がアクセントに対してどう呼応するかを表にまとめた。(表3～表12)

4. 結果

表2、表3～表12から見てくるそれぞれのグループの特徴を読み取った。特定の作品に見られる特記すべき事項がある場合は、それぞれ該当する項で説明を加えることとする。

4.1. 調号・調性について

表2から、調号とそれに伴う調性について、グループ毎にまとめると次のようになった。

歌 曲	# ♭の数は様々 (#4～♭4)
混声合唱	# ♭の数は様々 (#4～♭6)
童謡唱歌	# ♭が少ない(多くても2個まで)
児童合唱	# ♭が少ない(概ね2個まで)

傾向としては、独唱・合唱を問わず、子ども向けの曲は調号が少なく、大人向けの曲は調号が多い。

子どもは、学校など歌う機会を多く持つため、それまでの音楽的経験の多寡に関わらず読譜を簡便に行うための作曲家による配慮であると推察できる。一方、大人は子どもほどには歌う機会がなく、音楽を専門的に指導者のもとで学ぶ際、このような曲に触れることが多い。そのため、作曲家は調号の数に縛られることなく、曲のイメージに合致した調号の設定が自由に来たのだと考えられる。

調性に関しては、いずれのグループも圧倒的に長調の曲が多い。これは歌詞内容に拠るところが大きいですが、本研究で取り上げた「私と小鳥と鈴と」は、詩が肯定的で明るい内容であるため、音楽的な側面からみても、長調の曲が多いのは自然な現象であると考えられる。

4.2. 速度記号について

表2から、速度指示についてグループ毎にまとめると次のようになった。表中の数字は、メトロノーム記号を表しているが、基準となる音符が1分間に鳴る回数を示すものであり、数字が大きくなるにつれ速度も速くなる。

歌 曲	幅広く、様々な速度指示 楽想については、音楽用語(イタリア語)で書かれているものが多い
混声合唱	幅広く、様々な速度指示
童謡唱歌	80～102を、数字で指示
児童合唱	概ね80～110の数字で指示 楽想については、日本語の平易な表現で書かれているものが多い

歌曲グループ・混声合唱グループについては、テンポに関しても、「4.1. 調号・調性」と同様に、作曲家がそれぞれのイメージに合った速度指示をしているのがうかがえる。

童謡唱歌・児童合唱については、無理のない中庸な速さで指示されており、なかでも児童合唱は、発想記

表2 作曲家分類表

	作曲者	作曲年	調性	テンポ	拍子	分類した理由
歌曲	石若雅弥	2003	b3(長調)	Moderato	4分3	『歌曲作品集1 青い空の下で』(マザーアース,2005)収録の楽曲のため。
	伊藤康英	2002	b1(短調)	Andante (non troppo lento)	4分3	『伊藤康英全歌曲1』(イトーミュージック,2015)収録の楽曲のため。
	佐々木信綱	2015	b3(長調)	88	4分4	『金子みすゞの詩による8つの歌 独唱』(オフィス カムオンミュージック,2015)収録の楽曲のため。
	SEIGI	2014	b4(長調)	130	4分3	『歌曲ピース 私と小鳥と鈴と(独唱)』(フェアリー,2018)収録の楽曲のため。また、曲紹介のページに、この曲はソプラノ歌手のために書き下ろしたと作曲家自身によって書かれている。
	中田喜直	1991	b1(長調)	126位	4分4	グリッサンド(音を無段階にずり下げる演奏方法)奏法の指示や旋律内に八分音符で1オクターブの跳躍音程があることから、専門的な訓練を受けていないと演奏することが困難であるため。
	蒔田裕也	2019	#4(長調)	Allegro moderato (102)	4分3	『歌曲『私と小鳥と鈴と』』とYouTubeにおいて紹介されているため。
	山崎浩	2013	#4(長調)	Moderato (ca.80)	4分4	『金子みすゞの詩による歌曲集 蜂と神さま』(カワイ出版,2013)収録の楽曲のため。
童謡唱歌	大西進		調号無し(長調)		4分3	『歌曲』『独唱曲』などが書かれておらず、技術的に困難な箇所も見当たらないため。
	ちひろ	2004	b1(長調)	86	4分4	
	西村直記		b1(長調)	80	4分4	
	BANANA ICE	2008	#1(長調)	96	4分4	
	松岡宏明	2014?	#1(長調)	94	4分4	
	吉岡しげ美	1983?	#2(短調→長調)	102 (明るく軽快に)	4分4	
混声合唱(男声・女声含む)	相澤直人	2014	b2(長調)	Allegro con tenerezza (ca.104)	4分3	『女声合唱アルバム 誰にもいわずに』(カワイ出版,2014)収録の楽曲のため。
	大竹くみ	1995	#1(長調)	66	4分4	『金子みすゞの詩による7つの女声合唱曲 みえない星』(カワイ出版,2004)収録の楽曲のため。
	鈴木憲夫	2000	b1(長調)	Andante	4分4	『同声(女声)のための合唱ファンタジー みすゞこのみち』(カワイ出版,2000)収録の楽曲のため。
	新実徳英	2009	b1(長調)	ca.112	4分3	『金子みすゞの八つうた 無伴奏混声合唱のための愛唱歌集』(音楽之友社,2009)収録の楽曲のため。
	信長貴富	2010	b6(長調)	♩=32	8分6	『女声合唱とピアノのための 青いフォークロア』(カワイ出版,)収録の楽曲のため。
	松下耕	1997	b5(長調)	Allegro ma non troppo leggiero	4分4	『女声合唱のための5つの童話 わたしと小鳥と鈴と』(カワイ出版,1997)収録の楽曲のため。
	宗像和	1997	#1(長調)	Allegretto	4分4	混声合唱(SATB)の編成で曲が書かれているため。(男声パートは1オクターブ下で歌唱されるため、その声域からも児童合唱ではないことが分かる。)
児童合唱	江頭義之	2017	#2→b1→#1(長調)	Allegretto con moto	4分4	金子みすゞの詩による合唱組曲「みんながってみんないい」を作曲、平成29年9月に初演、以降西宮少年合唱団で度々演奏。(姫路大学HP 教員紹介ページより)
	杉本竜一	2006	b1(長調)	106 (にっこり安心)	4分4	『ピアノ伴奏CD付 児童二部合唱 はじめてのハーモニー』収録の楽曲のため。
	はたけやま裕	2023	b3(長調)	96 ゆったりと	4分3→4分4	『教育音楽 小学版令和5年2月号 別冊付録』に収録の楽曲のため。
	弓削田健介	2023	#2→b1(長調)	152ぐらい	4分4	『わたしと小鳥と鈴と 一斉唱・合唱』に収録されており、「子どもたちが歌って踊れる曲」と作曲家によって書かれているため。
	横山裕美子	2004	b1(長調)	88ぐらい	4分2	『小学生のための音楽会用合唱曲集 わたしと小鳥とすずと』に収録の楽曲のため。

表3 第1連1行目「わたしがりょうてをひろげても」

	わ	た	し	が	り	ょ	う	て	を	ひ	ろ	げ	て	も
歌曲	石若雅弥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	伊藤康英	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	佐々木信綱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SEIGI	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中田喜直	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	蒔田裕也	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	山崎浩	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
混声合唱	相澤直人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大竹くみ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鈴木憲夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新実徳英	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	信長貴富	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	松下耕	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	宗像和	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
童謡唱歌	大西進	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ちひろ	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西村直記	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	BANANA ICE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
	松岡宏明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	吉岡しげ美	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
児童合唱	江頭義之	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	杉本竜一	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
	はたけやま裕	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	弓削田健介	— (×)	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
	横山裕美子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×

表4 第1連2行目「おそらはちっともとべないが」

	お	そ	ら	は	ち	っ	と	も	と	べ	な	い	が
歌曲	石若雅弥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	伊藤康英	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	佐々木信綱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SEIGI	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中田喜直	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	蒔田裕也	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	山崎浩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
混声合唱	相澤直人	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	大竹くみ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	鈴木憲夫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新実徳英	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	信長貴富	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	松下耕	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	宗像和	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
童謡唱歌	大西進	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	ちひろ	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	西村直記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	BANANA ICE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
	松岡宏明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	吉岡しげ美	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
児童合唱	江頭義之	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	杉本竜一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	はたけやま裕	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	弓削田健介	○	— (×)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
	横山裕美子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×

表5 第1連3行目「とべることはわたしのよう」

		と べ る こ と り は		わ た し の よ う に	
歌曲	石若雅弥	○	○	○	○
	伊藤康英	○	○	○	○
	佐々木信綱	○	○	○	○
	SEIGI	○	—	○	×
	中田喜直	○	—	—	○
	藤田裕也	○	○	○	○
	山崎浩	○	—	—	○
混声合唱	相澤直人	—	—	○	○
	大竹くみ	○	○	○	○
	鈴木憲夫	○	○	○	×
	新実徳英	○	—	○	○
	信長貴富	—	—	○	○
	松下耕	—	○	—	○
	宗像和	○	○	○	○
童謡唱歌	大西進	—	—	○	○
	ちひろ	○	—	○	○
	西村直記	○	×	×	○
	BANANA ICE	—	○	○	×
	松岡宏明	○	○	○	—
	吉岡しげ美	○	—	○	○
	江頭義之	—	—	—	×
児童合唱	杉本竜一	—	○	○	— (○)
	はたけやま裕	—	×	○	○
	弓削田健介	—	○	—	○
	横山裕美子	—	—	—	○
		—	—	—	○

表7 第2連1行目「わたしがからだをゆすっても」

		わ た し が か ら だ を ゆ す っ て も			
歌曲	石若雅弥	—	—	—	○
	伊藤康英	—	—	—	○
	佐々木信綱	○	○	○	○
	SEIGI	○	○	×	○
	中田喜直	○	—	—	○
	藤田裕也	○	○	○	×
	山崎浩	○	—	—	○
混声合唱	相澤直人	○	—	—	○
	大竹くみ	—	—	○	○
	鈴木憲夫	○	○	○	○
	新実徳英	○	○	○	○
	信長貴富	○	○	○	○
	松下耕	—	○	○	○
	宗像和	—	—	—	×
童謡唱歌	大西進	○	—	○	—
	ちひろ	—	×	—	—
	西村直記	—	×	×	—
	BANANA ICE	—	—	—	—
	松岡宏明	○	○	○	—
	吉岡しげ美	—	×	○	○
	江頭義之	○	○	○	—
児童合唱	杉本竜一	—	○	—	×
	はたけやま裕	×	×	×	○
	弓削田健介	— (×)	×	—	○
	横山裕美子	—	—	—	×
		—	—	—	×

表6 第1連4行目「ちべたをはやくははしれない」

		ち べ た を は や く は は し れ ない	
歌曲	石若雅弥	○	×
	伊藤康英	○	×
	佐々木信綱	—	—
	SEIGI	○	○
	中田喜直	—	○
	藤田裕也	○	○
	山崎浩	×	—
混声合唱	相澤直人	○	○
	大竹くみ	○	○
	鈴木憲夫	○	×
	新実徳英	—	—
	信長貴富	○	○
	松下耕	○	○
	宗像和	—	×
童謡唱歌	大西進	—	—
	ちひろ	×	×
	西村直記	—	—
	BANANA ICE	○	○
	松岡宏明	○	×
	吉岡しげ美	×	○
	江頭義之	—	○
児童合唱	杉本竜一	—	—
	はたけやま裕	×	○
	弓削田健介	○	×
	横山裕美子	—	○
		—	○

表8 第2連2行目「きれいなおとはでないけど」

		き れ い な お と は で ない けど		
歌曲	石若雅弥	—	×	×
	伊藤康英	×	○	×
	佐々木信綱	○	○	○
	SEIGI	○	○	○
	中田喜直	—	○	— (×)
	藤田裕也	○	○	○
	山崎浩	×	—	—
混声合唱	相澤直人	○	○	○
	大竹くみ	○	○	○
	鈴木憲夫	○	○	○
	新実徳英	—	○	×
	信長貴富	○	○	○
	松下耕	○	○	○
	宗像和	—	—	—
童謡唱歌	大西進	×	—	×
	ちひろ	—	×	○
	西村直記	○	×	○
	BANANA ICE	—	×	○
	松岡宏明	—	—	×
	吉岡しげ美	—	×	○
	江頭義之	○	○	×
児童合唱	杉本竜一	—	○	○
	はたけやま裕	×	—	×
	弓削田健介	×	×	— (×)
	横山裕美子	—	—	○
		—	—	—

号に多いイタリア語ではなく、日本語を用いた易しい表現が使われている傾向にある。児童合唱グループに1曲、「♪=152ぐらい」と群を抜いて速い曲があるが、これに関しては元々のコンセプトが「子どもたちが歌って踊れる曲」であるため¹²、他の曲と比べて早いテンポになったのではないかと考えられる。

4.3. 拍子について

表2から、拍子についてグループ毎にまとめると、次のようになった。児童合唱グループの中に1曲、途中で3拍子から4拍子(=2拍子系)に変わる曲があるが、その曲に関しては、2拍子系0.5曲+3拍子系0.5曲とした。

表9 第2連3行目「あのなるすずはわたしのよ」に

	あ	の	な	る	す	ず	は	わ	た	し	の	よ	う	に
歌曲	石若雅弥	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	伊藤康英	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	佐々木信綱	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	SEIGI	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	中田嘉直	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	藤田裕也	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
混声合唱	相澤直人	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	大竹くみ	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	鈴木憲夫	○	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	新実徳英	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	信長貴富	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	松下耕	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
童謡唱歌	大西進	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	ちひろ	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	西村直記	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	—
	BANANA ICE	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	松岡宏明	○	×	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(×)
	吉岡しげ美	○	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
児童合唱	江頭義之	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	杉本竜一	—	×	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(○)
	はたけやま裕	×	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	弓削田健介	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	横山裕美子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○

表11 第3連1行目「すずとことりとそれからわたし」

	す	ず	と	こ	と	り	と	そ	れ	か	ら	わ	た	し
歌曲	石若雅弥	○	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○
	伊藤康英	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	佐々木信綱	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	—
	SEIGI	○	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	中田嘉直	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	藤田裕也	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
混声合唱	相澤直人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	大竹くみ	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	鈴木憲夫	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新実徳英	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	信長貴富	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	松下耕	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
童謡唱歌	大西進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ちひろ	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	西村直記	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	—
	BANANA ICE	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	松岡宏明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	吉岡しげ美	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
児童合唱	江頭義之	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	杉本竜一	×	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	はたけやま裕	×	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×	—
	弓削田健介	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	(○)
	横山裕美子	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	(○)

表10 第2連4行目「た く さ ん な う た は し ら な い よ」

	た	く	さ	ん	な	う	た	は	し	ら	な	い	よ
歌曲	石若雅弥	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	伊藤康英	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	佐々木信綱	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	SEIGI	—	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	中田嘉直	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	藤田裕也	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
混声合唱	相澤直人	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	大竹くみ	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	鈴木憲夫	○	—	(○)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新実徳英	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	信長貴富	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	松下耕	—	—	な	○	○	○	○	○	○	○	○	ま
童謡唱歌	大西進	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	ちひろ	×	—	—	○	×	×	×	×	×	×	×	○
	西村直記	○	—	(○)	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	BANANA ICE	×	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	松岡宏明	○	○	—	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	吉岡しげ美	○	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	○
児童合唱	江頭義之	—	—	—	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	杉本竜一	—	○	○	—	×	×	×	×	×	×	×	○
	はたけやま裕	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	弓削田健介	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	横山裕美子	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○

	2拍子系	3拍子系	合計
歌 曲	3曲	4曲	7曲
混声合唱	4曲	3曲	7曲
童謡唱歌	5曲	1曲	6曲
児童合唱	4.5曲	0.5曲	5曲

傾向としては、童謡唱歌・児童合唱共に、2拍子系

が際立って多い。3.2. で述べたように、稲作の2拍子のリズムは日本の生活の中に根付いているもので、左右の足を交互に出して歩くのもそうであるように、体の奥深くにしっかり染み込んだ2拍子のリズムで、落ち着きを持って子どもたちに歌ってもらおうという作曲家の思いが表れているのだと考えられる。

歌曲・混声合唱に関しては、どちらに偏ることもなく、2拍子系と3拍子系のどちらも確認することが出来る。ここからもまた、作曲家が何の制約も受けず、拍子をも自由に設定したものであろうことがうかがえる。

4.4. アクセントとの呼応について

次に、表3～表12を用いて、旋律の上下の動きと日本語の高低アクセントとが呼応しているのか、筆者が独自に定めた判定ポイントの音を手掛かりに、検分を行う。高低アクセントと旋律の上下の動きが同じであれば、それは、日本語を「話す」ように「歌う」こと

表12 第3連2行目「みんなちがって、みんないい」

	み	ん	な	ち	が	っ	て	み	ん	な	い	い
歌曲	石若雅弥	○						×			—	—
	伊藤康英	—						—			○	○
	佐々木信綱	—	(○)					—			○	○
		—	(○)					—			○	○
		—	(○)					—			○	○
		—	(○)					—			○	○
		—	(○)					—			○	○
		—	(○)					—			○	○
	SEIGI	○						×			○	—
	中田喜直	—						○			—	○
	齋田裕也	○						○			○	×
	山崎浩	—						—			—	○
混声合唱	相澤直人	—						—			○	○
		—						—			○	○
	大竹くみ	—						—			—	○
	鈴木憲夫	○						○			○	○
		○						○			○	○
		—						—			○	○
		—						—			○	○
		—						—			○	○
	新実理英	—						—			○	○
	信長貴富	○						○			○	○
	松下耕	—						○			○	○
	宗像和	—						○			○	○
童謡唱歌	大西進	—						—			—	○
		—						—			—	○
	ちひろ	○						○			×	○
		○						○			×	○
		○						○			×	○
	西村直記	—						—			—	○
	BANANA ICE	—						×			—	○
		—						—			×	○
		—						—			×	○
		—						—			×	○
	—						—			×	○	
	松岡宏明	○						○			×	—
	○							○			×	—
	吉岡しげ美	×						○			×	—
	×							○			×	—
児童合唱	江頭義之	×						—			×	×
		×						—			×	×
	杉本竜一	—	(○)					×			—	(×)
		—	(○)					×			—	—
		—	(○)					×			—	(×)
	はたけやま裕	×						×			×	○
		×						×			×	○
弓削田健介	×						×			×	×	
	×						×			×	×	
	×						×			×	×	
	×						×			×	×	
	×						×			×	×	
	×						×			×	×	
	×						×			×	×	
	横山裕美子	—						—			—	(×)
	—							—			—	○
	—							—			—	○
	—	(×)						—			—	(×)

を示すことにもなり、旋律を歌いながら、より言葉を伝わり易くする要素の一つとして捉えることが出来るであろうと考える。

4.4.1. 第1連

詩を読む流れに沿って、まず、第1連について検分する。第1連は表3から表6の4つの表にまとめているが、第1連全体を見ると、奇数行はアクセントと合致している○表記が多く、偶数行になると合致しない×表記が目立っている。これは、本研究の3.2. で述べたように、奇数行と偶数行で2行ごとにこのよう

な「謡の旋律パターン」の形が活かされていると考えることも出来る。

また、詩の内容を見てみると、偶数行は2行目、4行目とも否定文の形で書かれている。これは「対極否定表現¹³」と言われる表現方法で、次のような意味を持つことになる。

2行目「(私は) お空はちっとも飛べないが」
⇒「(小鳥は) お空を飛ぶことができる」

4行目「(小鳥は) 地面を速くは走れない」
⇒「(私は) 地面を速く走ることが出来る」

また、この表現方法が使われている行においてアクセントと合致させず日本語が流暢に流れるように旋律を作らなかったのは、敢えてそうすることで、心に引っ掛かりを持たせ¹⁴、対極否定表現を表層に出させようという意図があったのではないかと考える。

4.4.2. 第2連

次に、第2連について検分する。第2連は、詩としての形が第1連と揃っているため、「対極否定表現」も含め基本的には第1連での書法を踏襲したものとなっている。

特筆すべきは、アクセントとの合致状況である。一般的に、詩の第1連・第2連が似た形式で書かれている場合、作曲をするにあたって、有節歌曲(歌詞ごとに異なる旋律ではなく、ひとつの旋律を何度も繰り返すように作曲された歌曲)のように作曲されることが多い。ところが、表の中で特徴的なのは、1番の歌詞と2番の歌詞で言葉の高低アクセントの位置が違う場合、その対処の仕方が「歌曲・混声合唱」と「童謡唱歌・児童合唱」とで異なっているところである。

高低アクセント位置が異なっている箇所、各グループが次のような対応の仕方をしている。

「歌曲・混声合唱」⇒アクセントに旋律を合わせる

「童謡唱歌・児童合唱」⇒そのまま1番と同じ

楽譜の体裁を確認してみると、「歌曲・混声合唱」は、繰り返し記号を用いて書かれることが少ない。高低アクセントの位置が1番と2番とで異なる場合、2番においてその歌詞のもつアクセントの位置に合致させようとすると、旋律の動き方や音符の数、音価を調整することが必要となり、そうすると1番と2番が異なった旋律になるため、繰り返し記号を用いて楽譜を書くということが難しくなるというものである。

一方、「童謡唱歌・児童合唱」は、1番と同じ旋律を2番でも歌うため、繰り返し記号を用いると、子どもたちには読譜が、指導者には説明や指示が簡便になる。これは、1番と2番でアクセントの付く位置が異なることで起こる違和感よりも、子どもが旋律を早く覚えて親しめることを重視したいための方法ではないかと考えている。また、「童謡唱歌・児童合唱」は、全体的に同音反復の旋律部分が多いが、これも、同じ高さの音を連続させることで、アクセント上の明らかな違和感を和らげる効果があるのではないかと推察する。

4.4.3. 第3連

第3連は、第1連・第2連と比べると半分の行数ではあるが、内容としては、第1連・第2連で読んで(歌って)きたことの集大成となっている。そのため、グループを問わず、差別化を図るためにこれまでと全く違う旋律をつける作曲家も少なくない。ただ、この連においても、分類グループによって歌詞の扱い方に多少異なる点がある。

「歌曲」は、最後の連でこれまでと違う旋律を歌わせ、更に、ここまで出ることのなかったテンポの緩急に関わる指示が見られる傾向にある¹⁵。

「混声合唱」「童謡唱歌」「児童合唱」に関しては、音を引き伸ばすことはないが、それに代わり、繰り返しが多く、一番伝わってほしいであろう「みんな違って、みんないい。」というメッセージが、多い曲では6回、7回と繰り返されている。

上の3グループのなかで「童謡唱歌」は音楽の構成上は単旋律であるが、同じ旋律を複数人で斉唱として

も歌うことが出来ることを考えると、この繰り返しを皆で重ねていくことで、共感性が高まっていき、メッセージとしても強い力を持つのではないかと考える。

5. まとめ

「私と小鳥と鈴と」を歌詞とする25曲について、詩の持つリズム、日本語の高低アクセントとの関わり、音楽の形を持ったときの調性・速度・拍子に視点を当て、比較を行った。

その結果、同じ歌詞であるからと言って、必ずしも同じような曲にはならないということが見えてきた。しかし同時に、歌詞に込められた思いを相手に伝えようとするところでは共通点も多くあったのではないかとと思われる。

「うた」という漢字は「歌」(神楽歌、今様歌)、「謳」(謳歌)、「謡」(謡曲、地謡、童謡)、「唄」(長唄、小唄)、「哥」(上げ哥、下げ哥)など、日本音楽に関わるものだけでも数多くあるが、その言葉の語源は、「うちあう」(手拍子を打つ)、「うたう(訴う)」(うたえる)ではないかと言われている¹⁶。

「うたえる」が「うた」となったように、言葉を持つ音楽は、やはり言葉が一番大切であり、歌を作曲するということは、言葉をどうやって真摯に相手に伝えようかと、迷い悩み、音を通じて自分や自分の思考を形にしていく行為であると強く感じる事が出来た。今後は、様々な作曲技法と歌詞内容が、お互いにどのような作用をもたらすのかを明らかにしていきたい。

【註】

- 1 レファレンス協同データベース
[https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000090464\(2023.10.25,19:45アクセス\)](https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000090464(2023.10.25,19:45アクセス))
- 2 猪本隆『新しい日本の歌曲作曲法の研究〈言葉と旋律〉』滋賀大学教育学部紀要第27号, pp. 46-53, 1977
- 3 小野文子, 津上崇『歌曲・童謡におけるテキストと旋律の関連性について-(1)山田耕筰の作品に焦点

- を当てて-』中国学園紀要第10号pp. 267-272, 2011
- 4 黒須克彦作曲「私と小鳥と鈴と」
<https://youtu.be/NVU1LFBc8Es?si=YaratIQ2EGkj3rY9>
 池田みゆき作曲「私と小鳥と鈴と」
<https://youtu.be/yI1Ph2Dze9o?si=fdIaq0csuISwYoOF>
 美地作曲「私と小鳥と鈴と」
<https://youtu.be/FzdRiyqX0-I?si=ja7wLOXpzdQrqqqr>
 木村恵理作曲「私と小鳥と鈴と」
<https://youtu.be/Dc5LVkRwWH0?si=fnRLuLxLHuG-6n-O>
- 5 表2参照
- 6 藤原保明『等位表現における強勢音節とモーラの機能について』聖徳大学研究紀要第25号, p. 70, 2014
- 7 丹羽幸江『日本音楽うた理論』カワイ出版, 2021, p. 13
- 8 樋口桂子『日本人とリズム感』青土社, 2017, p. 40
- 9 同上書, p. 41
- 10 丹羽幸江, 上掲書, p. 16
- 11 竹内秀男『〈増補改訂版〉イラストでみる合唱指導法 授業に生かせる指導マニュアル110』教育出版, 2014, p. 109
- 12 弓削田健介・ことりゆき『金子みすゞ・矢崎節夫の詩による新しい童謡曲集 わたしと小鳥とすずと一斉唱・合唱一』教育芸術社, 2023, p. 2
- 13 友清睦子・鈴木雅実『日本語会話文における比較表現の分析』情報処理学会全国大会第42回講演論文集, 1991, p. 1 なお、「対極否定表現」の例として、次のような例文が記載されている。
 「花子は太郎より背が高い」の例文は、「太郎は花子の背丈にとどいていない」の意味を内包する。つまり表現の裏側に否定命題を含むということである。
- 14 鈴木雪絵『箕作秋吉の声楽作品についての研究
 —「芭蕉紀行集」を中心として』兵庫教育大学大学院修士論文, 2019, p. 49
- 15 音を十分に伸ばす指示記号（フェルマータ）が、以下の作曲家の楽譜に見られる。（括弧内は小節番号）
 石若（68）、伊藤（35）、佐々木（50）、SEIGI（93）、中田（19）、山崎（25）、蒔田は指示記号こそないが、第3連の歌詞が出てくる54小節目以降は一音一音の音価が長くなり、たっぷりと歌わせている。
- 16 田中健次『ひと目でわかる日本音楽入門』音楽之友社, 2007, p. 35

【参考文献】

- 金田一春彦監修『新明解日本語アクセント辞典』三省堂, 2016
- 小泉文夫『日本の音』平凡社, 1994
- スティープン・マロック、コルウィン・トレヴァーセン編『絆の音楽性 つながりの基盤をもとめて』音楽之友社, 2018
- 坂野信彦『七五調の謎をとく』大修館書店, 1996
- 衣畑智秀『基礎日本語学』ひつじ書房, 2023